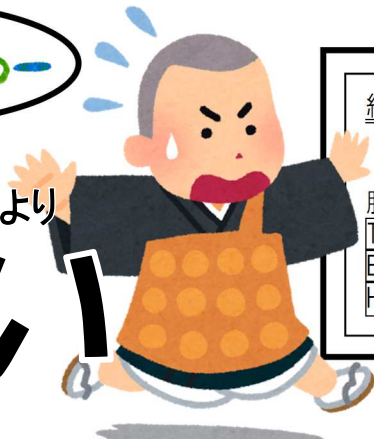


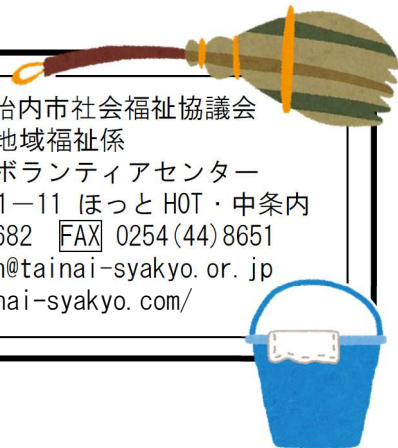


令和2年度12月号
ボランティアセンターだより

たいない



編集・発行 胎内市社会福祉協議会
地域福祉係
ボランティアセンター
胎内市西本町 11-11 ほっと HOT・中条内
TEL 0254(44)8682 FAX 0254(44)8651
E-mail borasen@tainai-syakyo.or.jp
HP <http://tainai-syakyo.com/>



今年も残すところ、あと1ヶ月。

昨年の今頃に、2020年はこんなことやあんなことをしよう！と思い描いていたことを、行うことはできたでしょうか。2021年は、楽しい楽しい1年になることを願い、また想いを巡らせたいと思います。

スタートしました

手話奉仕員養成講座

入門
課程



「手話奉仕員」をご存知でしょうか。

胎内市でも定期的に、手話奉仕員を養成する講座を開催しています。この講座では、手話で日常会話を行うことができる手話通訳表現技術を習得し、聴覚障がい者等との交流活動を促進する支援者として携わることを目指します。入門課程、基礎課程の2課程に出席する必要があり、今年度は「入門課程」になります。

今回の参加者は、初めて手話をする方と手話を勉強したことのある方合わせて6名です。

11月6日から始まり12月23日までの17日間の長丁場になりますが、初回の講座では受講者から「楽しかった!」とご意見をいただきました。何事も、楽しみながら学習することが1番の上達に繋がり、自分にもプラスの影響となりますので、幸先良いスタートとなりました。

*講座は、すでにスタートしていますが、市内には手話のグループが2団体あります。

誰でも、自由に見学や参加していただくことが可能ですので、ぜひご興味がある方がおりましたら、ぜひお問い合わせください。

ほうこく①

ボランティアきっかけづくり 絵本読み聞かせ講座



新潟県内外で活躍される絵本講師 福島はるお様を講師に、絵本よみきかせ講座を9月16日に開催しました！参加者は、孫に絵本を読み聞かせる機会がある方や仕事で絵本を読み聞かせる機会がある方などの14名でした。

当日、福島先生が持ってきた絵本で会場はにぎやかに飾られ、先生のお人柄も含め、和やかな雰囲気が進められました。会場にいた全員が絵本読み聞かせに興味のある方々の参加でしたので、積極的に質問をする様子があったり、参加者同士の読み聞かせタイムには思い思いに感情が込められた読み聞かせが繰り広げられていました。

“絵本読み聞かせ”というと、一見読み手を考えて絵本を選んでみたり、一生懸命に役になりきって読んでみようと思うのではないのでしょうか。しかし、福島先生からは、読み手（自分自身）が面白そうだと思うものを選ぶこと、絵本は絵を楽しむものとお話があり、難しく考えずに自分も楽しみながら読むことが一番大切とのこと。大人になってから読む絵本は、子どもの頃に読むのとまた違って大変良いものです。図書館では無料で色々な絵本を借りることができるので、ぜひ行ってみてください。



ほうこく② 災害ボランティア講座



この講座は昨年度に延期となった講座で、11月7日に無事開講することができました。防災のスペシャリスト、野村防災(株)野村卓也様、RあんどH会田理恵子様を講師に、これまで被災地で見てきた状況や支援のほか、コロナ禍において今後必要となる対応についても触れ、今後起こりうる災害の備えに合わせて、情勢に沿った動きを確認しました。

また、皆さんが災害時に気になるのは「食」についてだと思います。本当であれば一緒に体験、試食の予定でしたが…今回は、講師による調理実演と蒸しパンのお土産となりました。調理工程も洗い物も少なく抑えられ、誰でも簡単に美味しく作ることができるのがパッククッキング！当たり前が当たり前でなくなるのが災害です。暖かい美味しいご飯を食べられることのありがたさに気づかされました。普段の食事にも、取り入れてもいいですね！



私たちの生活に欠かせない100犬

年々、ペットを飼う家庭が多くなっています。犬、猫、鳥、魚…ペットといってもさまざまで、こんな動物までペット!?なんてこともニュースでよく見聞きしますね。今回は、“犬”にクローズアップします。この間、新潟日報の日報抄に気になった記事がありましたのでご紹介いたします。

皆さんは、人のためにお仕事をする“〇〇犬”は、どのくらいの種類があると思いますか。福祉の現場には、さまざまな“犬”が活躍しており、私たちの生活にも馴染みのある、「警察犬」「災害救助犬」「聴導犬」「介助犬」「盲導犬」。障がいの有無問わず、今や犬は私たちの生活に大切なパートナーとなっています。これまでに挙げた種類のほかにも、「付添犬」「読書介助犬」という“〇〇犬”が活躍しており、支援が必要となる人を支えています。

「付添犬」は、虐待等の被害を受けた子どもが、法廷で安心して自分の受けた出来事について、他者（司法関係者や医療従事者など）に伝えられるよう手助けをする犬のこと。

「読書介助犬」は、人前で話すことが苦手な子どもが、犬に本を読み聞かせることで自信を得るというセラピーのために働く犬のこと。

訓練を受けた犬は、入院患者の苦痛を和らげたり、リハビリの意欲を高めてくれるという研究結果も出ており、もふもふとした手触りとぴたっと寄り添ってくれる安心感が、私たちの心を和らげてくれています。

先日11月25日に視覚障がいについての授業の講師紹介依頼を受け、きのと小学校に訪問してきました。講師には、盲導犬と生活する田中様と、白杖で生活する佐藤様にご協力いただき、それぞれの普段の生活についてお話や歩行誘導体験などを行いました。「服は自分で着られるの?」「トイレはひとりでできるの?」「寝るときは?」など質問が飛び交い、子どもたちにも理解しやすい授業でした。当事者からのお話が一番子どもたちの心に響くと思います。最後には、街で障がい者を見かけたら、困り事はないか声をかけてくれると嬉しいですと締められました。ボランティアセンターでは、子どもたちが障がい者福祉について考えるきっかけづくりのお手伝いとして、市内小中学校でも活動が広がるよう、PRを頑張りたいと思っています。



今年は年明けから感染症の話題に気持ちが踊らされ、あつという間の1年でした。事業の延期や中止等もありましたが、報告のとおり各事業や取り組みを無事に行うことができましたのも、ボランティア活動を行う皆様のご理解とご協力があったからこそです。日頃より、皆様にご協力をいただいておりますことに、改めて感謝いたします。来年も皆様にとって良い年となりますよう、お祈り申し上げます。胎内市ボランティアセンター 渡邊